

No. 1023

# 日本の祭り

真夏の夜、東京神宮の森をとどろかせる祭りばやし。8月16日から3日間、盛大に日本の祭りは繰り上げられた。

北から南まで、日本の郷土が生んだ祭りや芸能。武田信玄の出陣をもりたてる岡谷太鼓。

淡路島五色町長林寺に伝わる珍しい芸能つかいだんじり。だんじりを横倒しにしても真逆さまにしてもなかの2人が打ちならす太鼓は決して乱れない。

宇和島の夏祭り秋祭りに町中を練り歩く巨大な怪物牛鬼。この怪物は枕草子によれば悪魔を追い払う名も恐い牛鬼だと伝えられている。高さ10m、12段に309個の提灯を飾り、重さは3.5トンもある北九州戸畑の祇園提灯大山笠。

死者の霊をなくさめ、疫病退散を祈願して夏の夜を練り歩く。200年近い伝統に支えられて今に伝えられた祭りの行事だ。

死者の霊を踊りの渦に巻き込んで送り出すために踊る有名な徳島の阿波おどり。

東北三大祭りのひとつ青森ねぶた祭り。稔りの秋をひかえ、夏の暑さに負け、つい誘われる睡魔を人形の組ねぶたにつけて送り流してしまおうとするネムリ流しの行事だ。日本の祭りは、その殆んどが死者の霊をなくさめ、疫病を退散させ、秋の稔りを祈願して生れた。

郷土が生んだ素晴らしい祭りは10万人の観客をその祭りの渦に巻き込んでいく。ふるさとの香りをばらまいて夏の夜は過ぎていく。夏の祭りが終ればもう秋だ。

# 熱

# 球

## —静岡高対広島商—

快晴の8月22日、6万余の大観衆をのんだ甲子園球場。第55回全国高校野球大会は、出場48校の中から勝抜いてきた古豪静岡高と名門広島商との間で決勝戦をむかえました。午後1時、主審郷司の右手があがってプレーボール。ピッチャーは広島・佃、静岡・秋本、両エースの先発。

1回裏、広島の攻撃、先頭の浜中がショート・ゴロ・エラーで出塁すれば、続く田所もバンド・ヒット。金光がバンドで送って早くも一死二、三塁のチャンスをつかみました。続く4番の楠原はファースト・ライナーに倒れたものの、5番の町田が、レフト前にヒット、二者生還して広島は2点を先取しました。

2点を追う静岡3回裏の攻撃、先頭の8番秋本が左中間を深々と破る三塁打、しかし、スクイズ失敗で無得点。当たっている静岡は6回、永野、植松が連続安打して、無死二、三塁の絶好の反撃機を迎え、バッターは4番の水野。佃の二球目を強打すれば、セカンド・ライナーで不運にもダブルプレー、チャンスはついえたかに見えたが、続く白鳥のレフトオーバーの二塁打で、1点を挽回。さらに8回、先頭の植松が左中間に三塁打、続く水野のセンターへの犠牲フライでかえって、同点に追いつきました。

初回2点を先取した広島は、2回から立直った秋本におさえられ、8回まで、追加点をあげることができません。そして、2対2の同点で迎えた9回裏、先頭の楠原が内野安打で出塁、町田、川本も四球を選んで一死満塁のチャンス。ここで8番大利は5球目、見事スクイズを決め、楠原がかえって、サヨナラ勝ち。

静岡高の善戦も空しく、深紅の大優勝旗は、16年ぶり5回目の優勝を飾った広島商の手にかがやきました。この暑さの中、15日間にわたって熱球を追い続けた、高校球児の姿は、さわやかな印象を残しました。